

はっちゅい短信

国民の祝日「山の日」記念植樹祭報告
2016,10,4 HAT-J 担当 神崎忠男

2016年10月2日(日)富士山が最もきれいに見える所、富士吉田市新倉山浅間公園に桜の木を植樹することが出来ました。不順な天候つづきでしたが、この日は晴れ渡り、植樹時には富士山の頂上も顔を出し植樹を見守ってくれるなか、約70名の自然保護愛好者が集まり楽しい雰囲気の中で植樹活動が無事に納まりました。

今回の主催は主要山岳団体で構成されている山岳団体自然環境連絡会にお願いし、社会貢献、奉仕活動の一環として構成団体のHAT-Jが主管となり、準備をさせていただきました。また、富士吉田市、富士吉田体育協会、さらに山梨県山岳連盟、日本山岳会山梨支部、山梨勤労者山岳連盟の協力もお願いするなか、地元御坂山岳会のメンバーの支援を頂き、また、今回、東海支部からも4人の出席を頂き、期待以上の成果は活動に理解して参加していただいた皆さまのお蔭と深く感謝し、心から御礼申し上げます。

なぜ、山の日が8月11日なのに10月にしたのかという質問を多く受けました。植樹ということで地元の植木屋さんに相談したところ7月8月9月は植樹に適した月でないと指導を受け、また、「山の日」当日は各所各団体で行事が多いことも考慮にいれ10月にさせていただきました。

今回のねらいは「植樹」を通して自然保護の重要性を啓発してもらおう…、日頃、自然保護活動は大切とっていることを行動で示したいと計画いたしました。また、国民の祝日「山の日」といっても一般国民には「山の日」の理解が浅いと考え、一般の人たちにも参加してもらえる「植樹」を取り入れ、一般の人たちが参加しやすく、植樹をすることで自然に近づいてもらいたいとの願いを込め企画にさせていただきました。HAT-Jを含め登山界から一般国民に向けて「山の日」を理解してもらおう啓発の必要性を強く感じます。

8月11日は全国「山の日」協議会が主催して全国集会在上高地で開かれました。国会議員、自治体、各省庁などの関係者の出席の中登山界及び登山者の出席が少なかったかなと受け止めました。登山界の発想から進展した「山の日」登山者の目線で登山界が一つになって初めての「山の日」集会在あってもよかったかなと思ひながら出席しておりました。帰り道かっぱ橋の上で登山者が「今日は何の日で休日なの?」という仲間同士の会話にも苦笑いをしてしまいました。

今回、山岳団体自然環境連絡会にお願いしたのも、登山界が一つになって公益事業、社会貢献の一環につながる活動として実施できたらと少々背伸びした着想ではありましたが、これからの登山の普及、振興、登山界の秩序などを考えると、公益社団法人格を持つ山岳団体に期待したい。「山の日」が制定され、スポーツライミングがオリンピック競技に参入して、登山が多様化するなか登山界の再編成による社会の一員としての自覚にたった新しい時代に向き合う登山及び登山界づくり…、今までは登山界というと山岳団体や登山組織の問題のようにも受け止められていたが、これからの時代は自然に親しみ山に登るすべての登山者ひとり一人が登山界の構成員という考え方の自覚および啓発が必須とも一登山者として考える。

登山界の各団体は高齢化や財政難、メンバーの減少など同じような難問をかかえていると推測しますが、HAT-Jにおいても例外ではない。難局にぶつかると執行部への不満が高まるが執行部だけを責めても解決する問題ではない、確かに執行部の責任や使命は重いが、会員にも会員としての責任や義務感の自覚、お互いに責任をなすり合わせることなく、組織全体で一つになって知恵工夫を生かし、意欲的な行動の中に組織を支える体制づくりが肝要。こういうことを言っているから自分は嫌われるのだが、今更高齢の自分は嫌われた方が組織のためとも考える。今回、国民の祝日「山の日」記念植樹祭に携わってみて、HAT-Jの体制が見えてきた、良いか悪いかの判断より、好きか嫌いか、自分の都合第一主義の優先、HAT-Jとして…、自然環境保護の精神に見合う行動力の不足、労り合う精神の欠如。これも詰めれば会長の責任であり、会員のみなさんは会長の言葉でない、責任を会員に押し付けるなと言われるでしょう。会長の責任をとれる会長を選出し…、他人を選出する責任が自覚できるHAT-Jづくりを目指さなければと悟りました。

HAT-Jのやろうとしていることは社会的に重要な活動と信じている。誰かがやらなければいけない事業です、どんなに登山が多様化しても自然保護の大切さは変わりません。たまたまあなたが社会人として社会からその運勢を与えられたと思ひ、前向きにあなたの力と情熱を発揮して下さい。社会に登山界に貢献、奉公するその結果が、またあなたに恵みとなって還ってくる大器晩成の大らかな考え方でHAT-Jの明日を築いていこう。

今回の国民の祝日「山の日」植樹祭を具体的に準備させていただき、自分なりに感じたこと言わせてもらいましたが、感情論、矛盾論ととられるところもあるかと思いますが、責めたり、反発したりする意図はありません。会長も会員も人間としては何の変りもありません、みんなと…仲間と共にやっていきたい一心の愚痴と自分なりに勝手な判断をしています。社会に親しまれ、登山界に期待され、自分たちのためのHAT-Jづくり、会員各位の理解とご指導宜しく願いいたします。